

様式第 1（第 15 条関係）

会 議 録

会議の名称	令和 5 年度 第 2 回 和泉市介護保険運営協議会議事録
開催日時	令和 5 年 8 月 28 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 4 時まで
開催場所	和泉市役所別館 3 F 3-1 会議室
出席者	<p>【委 員】 梅谷会長、佐藤職務代理、鹿島委員、北野委員、服部委員、谷上委員、門林委員、山本委員、松下委員、松阪委員、溝川委員、河村委員、平田委員、高橋委員</p> <p>【事務局】 吉田副市長、奥野室長、有住課長、岩橋課長、寺田総括主幹、古川総括主幹、奥村総括主査、廣田総括主査、西村総括主査、勝田総括主査</p> <p>【計画作成支援事業者】 株式会社関西計画技術研究所 大内</p>
会議の議題	<p>1. 報告</p> <p>①和泉市の現状 ○統計データのまとめ（資料 1）</p> <p>②第 8 期計画の評価 ○第 8 期計画の評価のまとめ（資料 2） ○体系ごとのアンケート結果（資料 3）</p> <p>2. 審議及び意見交換</p> <p>③計画の基本理念、基本目標、骨子について ○基本理念（資料 4） ○ロジックモデル（資料 5）</p>
会議の要旨	上記議題に関して意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
その他の必要事項（会議の公開・非公開、傍聴人数等）	

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
司会	<p>定刻となりましたので、ただいまより令和5年度第2回和泉市介護保険運営協議会を開催させていただきます。</p> <p>本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。私は司会を務めさせていただきます、高齢介護室の廣田です。よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず、はじめに、高齢介護室長の奥野から一言ご挨拶申し上げます。</p>
室長	室長挨拶
司会	<p>ありがとうございます。本日は、第9期和泉市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定するにあたり、策定支援事業者の株式会社関西計画技術研究所の大内氏に出席していただいております。委員の皆様にはご了承願います。</p> <p>では、議事に入る前に、本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>先日お配りさせていただきました資料はお持ちいただいておりますでしょうか。</p> <p>資料は「会議次第」と「令和5年度第2回介護保険運営協議会資料」資料番号1～5でございます。また、机上に「第1回目の介護保険運営協議会の振り返り及び質問・意見等に関する回答」を配布させていただきます。ございますか。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきたいと思います。議事進行につきましては、本協議会規則第4条第2項の規定によりまして、会長が議長となり進行をしていただくことになっております。</p> <p>それでは、梅谷会長これからの議事進行よろしくお願いたします。</p>
会長	<p>では、始めさせていただきます。本日はお忙しいなか本協議会へご出席、誠にありがとうございます。本日の協議会は、次期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画についてご協議いただくこととなります。高齢化が進む中、市民が高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、委員皆様のご経験やお知恵をお借りしながら、本計画を策定する必要があります。委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただきながら、スムーズな議事進行にご協力をお願いいたします。</p> <p>では、最初に、本日の委員の出席状況を事務局よりおねがいします。</p>
司会	<p>はい。本日の出席状況の報告をさせていただきます。</p> <p>総委員数15名に対し、坂口委員が欠席の旨連絡いただいておりますので現時点での出席委員14名です。過半数出席いただいておりますので、本委員会規則第7条第2項の規定を満たしておりますので会議が成立することをご報告いたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>さて、本委員会では、「公開基準」に基づきまして、一般公開しております。本日につきましても傍聴を認めておりますが、傍聴希望者がおられませんので、このまま進めてまいります。</p> <p>それでは次第に沿って、順次進めて参ります。</p> <p>まずは前回の会議の振り返りについて、事務局報告願います。</p>
事務局	(前回の会議の振り返りについて説明)
会長	<p>只今、報告・説明のあった内容について、なにかご質問等ございますか。</p> <p>特に無いでしょうか。今後もこういったかたちで振り返りをしていただければ良いかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして報告の①和泉市の現状としまして、統計データのまとめについて、事務局から報告をお願いいたします。</p>
事務局	資料1 「和泉市の現状」について報告
会長	<p>最後のページにまとめを付けていただいているということですね。では、ただ今報告のありました内容について、ご質問やご意見がございましたらよろしくお願いいたします。</p> <p>私から1つ。現状をまとめていただいておりますが、今回は2040年の目標なども</p>

	挙げられますし、第9期は3か年の計画、そしてさらにその先を見据える必要があるかもしれません。本市の状況、高齢化率や後期高齢者、85歳以上の方の人口割合がどうなっていくのかなどの将来推計のデータも、計画に活かすために必要かと思しますので、次の協議会の中で将来推計を提示していただいてもよろしいでしょうか。
事務局	国の計画に関する方針等も8月にでましたが、将来推計ができるシステムもリリースされたところでまだ推計できていません。将来推計が目標等を考えるにあたって必要というのは重々承知しており、推計に関しては、次の素案までに行き、その時点で分かっている範囲をご報告の上で、ご検討いただく予定です。
A委員	18、19ページの「夜間対応型訪問介護」についてはゼロですが、これは利用者の方がいらっしゃるのに対応が出来ていないのか、それとも全く利用者さんがいないのか。もしいらっしゃらないとすれば、どういうわけなのか。本当に要らないのか、要るけれども色んなご事情があって使えないのか、そういうところを知りたいです。
事務局	和泉市内には夜間対応型訪問介護事業所がございません。市内に無いというところでゼロとなっています。
会長	他に質問がなければ、次に②「第8期計画の評価」について事務局説明願います
事務局	資料2 「第8期計画の評価」 資料3 「施策体系におけるアンケート結果」について説明
会長	今説明いただいたのは、PDCAサイクルのCの部分になってきます。只今、報告・説明のあった内容について、なにかご質問等ございますか。
A委員	<p>地域包括支援センターの周知についてですが、私はよく入院するのですが、入院するたびにどこに相談して良いか分からないという声をよく聞く。それが、虐待を知ったらどこに知らせるのかなど、全てのことにもつながってくる。一番安心するのは、地域包括支援センターは医療と介護の連携もしっかりと図っているということを説明すること。それをしていただければ、安心できると思います。</p> <p>それから、民生委員についてですが、私たちの地域では、どなたがお世話してくださっているのか知らないが、そういう人たちに家の中に土足で入るようなことはして欲しくない。顔も知らない方に関わりを持っていただきたくない、という考えの高齢者もいらっしゃると思う。</p> <p>そして、おたがいさまサポーターと移動支援について。地域によってサービスが無いところもあり、差がある。ここはあるけれどもここはない、ここはもっと周知が必要など検討してほしい。</p> <p>外国人の方について、労働者の人材確保も含め、市として人材確保の支援を検討する必要があるということを書いている。私は日本語を教える資格を持っているので、何人かに教えているが、やはり生活用語と福祉用語は全然違う。だから、専門用語はいくら説明しても把握できないということがあった。</p>
B委員	<p>まず、9ページ「高齢者を支える体制、セーフティネットの推進」の「目標達成に向けた実施施策」にある老人クラブ補助費は、老人福祉法に基づいて、国、府、市で分担して補助金をいただいている。我々は老人クラブの活動をしており、補助金もそうだが、和泉市から活動に対する指導、支援いただいていることのほうが大きい。言葉の問題だが、老人クラブ活動支援のほうが適切ではないかなと思う。</p> <p>それから、老人クラブは年々会員数が減っているということは我々も反省している。私は老人クラブ会長と、シルバー人材センターの副理事長をもっているが、市の広報誌の封筒などでシルバー人材センターの会員募集をしてもなかなか人は集まらない。年金を貰うのが遅くなるので、働きたいという方はたくさんいるが…。高齢者が働くことができる機会を提供する必要がある。</p>
会長	B委員からご指摘があった、老人クラブ補助金に関する事柄等について、事務局から何かありますか。
事務局	市では老人クラブの補助金を交付していますが、会長をはじめその他会員の皆様と

	色々とお話をさせていただきながら、各種施策等について検討させていただいているいい機会となっております、市も助けられています。
会長	ここに記載されているのは「主な実施施策」ということで、「主な」が付いていませんし、B委員からご指摘があった内容を今後記載するかどうかは、また事務局で検討していただけたらと思います。 それから、始めにA委員からご指摘がありました、周知の重要さですね。そのことについても、いくら良い事業をしても周知啓発していくことが重要になりますので、そのあたりも事務局で念頭において施策の実施、周知をしていただけたらと思います。
C委員	先ほどA委員がおっしゃった、困った時の相談先ということについて、社協でも各校区で、困った時の相談先などのパンフレットをつくって、掲示しています。困って初めてそういうものを見て、ここに聞いたらいい、あそこに相談したらいいということが分かるのですが、そうでない限り、普通は皆素通りしています。 ただし、自治会の組織が50%切ったような状況ですと、こういったものは掲示されていませんし、特に集合住宅などでは自治会が組織されていないところもあります。そういったところには市のほうからも、周知してもらえればと思います。社協も協力しますので、ぜひとも進めていただけたらと思います。
会長	私から2点。資料2の12ページの8050問題の記載について、少し間違いがあるかと思しますので、また事務局でも考えてください。一般的に8050は、80歳の高齢の方がひきこもり等の50代の方を養うという位置づけが多いと思います。それから少しずれている内容になっていると思いますので、一度文章の検討をお願いします。 もう1点、資料2の16ページの「介護保険事業の適正な運営」の分析について、これは間接的には関わっている内容かと思いますが、適正な運営について直接的な事柄を記載するほうが良いと思いますので、その辺りも記載を検討していただければと思います。 では次に、審議および意見交換事項、③計画の基本理念、基本目標、骨子について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	資料4 「基本理念(案)」について説明
会長	説明いただいたのは第9期計画の基本理念と、基本目標についてです。 事務局としましては、2040年の姿についての案1の提案。基本目標については①から⑤の提案ということになります。 2040年の姿につきましては、先ほどの説明にもありましたように、裏面に案2、案3のようなものも提示されていますし、それ以外もご意見いただければと思います。基本目標も①から⑤までご提示されていますが、そのことについてもご意見をいただければというところでございます。
D委員	和泉市独自として、和泉市では何が困っているのか。それに対してどうしたらよいか。大阪府や全国がこうだから、ではなくて、和泉市ではどうなのかというかたちで、進められたら良いかなと思っております。 資料1の最後にまとめがありますが、高齢者世帯がどんどん増えていくということは皆さんご存知なのですが、単身世帯も増える。これは和泉市独自というよりも、大阪府全部そうだと思うのですが、お一人の方がこれから歳をとっていったあと、どう生活していけるのかということが問われている。これ自体は和泉市独自ではないのですが、この次のところです。要支援・要介護認定者が多いということです。和泉市はどちらかというと介護認定率が低かったのですが、だんだんと大阪府に近づいています。そして、和泉市は要支援認定者が大阪府より多いです。全国というよりも大阪でみているのですが、大阪府中でも多いです。これは認定の問題もあるかもしれませんが、こういう人たちはどういうサービスを受けているのかということが資料に出ておりましたが、要支援が多いということは、重度化防止のために予防を、今後も強く続

けていったほうが良いのだろうという感じがしました。

その次に、和泉市は大阪府、全国よりも居宅サービスの利用者が多い。特に要介護1以下の人の利用が多いと出ています。確か、大阪府は全国の中でも居宅サービスの利用が第1位だと思っていたのですが、和泉市は大阪府の中でもまだ更に多いということで少し驚きました。お金の使い方も少し考えないといけないのではないかと。でもこれは、先ほどの要支援が増えているということもリンクしていると。そうするとやはり、経済的なことを考えるとある程度は予防というものをもう少し重視したほうが良いだろうなど。

そして、給付費としては訪問介護が最も多く、全体の約2割。訪問介護は受給者一人当たりの給付費自体も大阪府は全国で何位か分からないですが、高いほうです。

こういうベースを頭に入れた中で、資料3をみると、実際に皆さんの意見がどうなのかなということが大体書かれていたので良いかなと思いました。

まず9ページの下の方です。地域包括支援センターの認知度、満足度について。要介護者、要支援者に関しては基本的には前回よりも認知度は高まっています。不満も少し下がっているのは、良かったことではないか、よく頑張ってくれているのではないかといいことを言いたいわけです。

その次に、12ページです。医療や介護について相談できる機関の、かかりつけ医について。かかりつけ医師、歯医者、薬剤師も含め、こういう三職種の人たちが和泉市においては、そんなに極端ではないけれども、前回より増えているということ。かかりつけ医師がいないというところは、今回、要支援、要介護者で4パーセント程度しかない。ほとんどはかかりつけ医師がいるのだということが言いたい。

その次に、「高齢者を支える体制の整備、セーフティネットの推進」について。先ほど言ったように、和泉市は一人暮らしが、やはり非常に多い。夫婦のみ世帯も一気に増えている。じゃあそういうところにはどういったサービスが必要か、家族が二世帯いるところへのサービスと二人で住んでいるところへのサービス、一人で住んでいるところへのサービスは明らかに違っていると思う。

次に14ページ。どういった生活支援サービスが欲しいのかという中で、今後利用したい生活支援サービス、もしくはケアマネジャーさんが、今後重視したほうが良いというサービス。これは大体よく似ているのですが、14ページを見ますと、1番が外出同行、あと移送サービスというところ。通院、買い物、移送を合わせて要介護だけ見ましても前回よりかなり増えています。そして、声かけ・見守り、定期的な通いの場、これが20パーセントほど。そして配食というところ。15ページで、これについて専門職であるケアマネジャーから見た視点を見てみると、この配食というのが今回の調査で29.7パーセント35名となっていますけれども、前回より少し減っています。これはきっと和泉市で配食サービスが進んできたのかなと思うのです。つまり、企業努力が始まってきたと。ところが、ゴミ出しなどの生活支援サービスなのですが、26名から31名に増えています。声かけ・見守り、これも46名に増えている。定期的な通いの場、これも46名に増えている。外出同行、これも83名に増えている。

それからもう一つ、企業がやるべきサービスは配食、これは済んだ。市民の私たちが、いわゆる共助の部分としてゴミ出しや見守り・声かけ、外出同行をできれば良いかなと思うのです。けど移送サービスに関しては、なかなか自助と共助だけでは難しいだろうなど。公助の中は少し何かできないかなと思ったんです。例えば他市町村では、小さいミニバスやミニタクシーを市町村で行い、できるだけ買い物について行ってもらい、できるだけ一人にさせない、それも含めて介護予防につながるという考え方がありますが、そういうことも少し、第9次の介護保険事業計画の中で考えてもいいのではないかなと。

次は17ページ、今後も働きながら介護を続けられるかという話です。働いてもらいたいですが、働くためには家族が出来ないことは他のサービスでやらざるを得な

	<p>い。でも、17 ページの一番上の表で、前回と比べてどうなのか見ても、そんなに変化はない。前回とあまり変わっていない。そういうサービスに関しては和泉市ではあまり変わっていないのか。介護しながら働きやすい環境になったのかというときにどうなのかと感じました。</p> <p>19 ページ。基本目標 5「介護サービスの質の向上と介護保険事業の適正な運営」とあります。これは和泉市だけではないのですが、実際に介護保険サービスをしているところ、在宅でも施設でも、人の問題が一番大変です。ところが、19 ページの一番下に、新規利用者の獲得が困難と書いています。n（回答数）が 43 から 62 に増えています。事業所が患者を取り合っているということです。東京や大阪市内だと話は違います。泉州の特徴かもしれない。何が言いたいかというと、サ高住が多すぎるんです。増やしたらいけないとは言っていません。それでかつ職員も不足している。職員の不足割合に関しては前回調査と今回調査で n（回答数）に関してはほとんど同じです。以前から言われていることなので、これは決して良くならない。ますますこれから大変でしょう。11 番の人材育成と責任者についても、明らかに増えています。人材育成をできる人間も少ないから、育成ができるわけがないのです。なぜかというと、おそらく社会の給与が上がってきたからです。アメリカの GM で時給が上がる中、日本の会社はどうするかという話が出ていました。おそらく日本もこれから上がっていく。そういう中で、今の状況では、介護保険が財政的に増えていかない中で、人の育成というよりも人が来ないのではないかという話です。働いていただけないと。そうすると、何とか共助を考えなくてはいけない。公助の面はできるだけ和泉市独自として考えていただきたいなと感じました。</p>
E 委員	<p>資料 1 の一番後ろのまとめの中で、和泉市は居宅サービスの利用者が多い。それから給付費として訪問介護が最も多く、となっています。</p> <p>かつて読んだ本に、病院に入院するか、在宅で介護を受けるか、延命重視でできるだけ長くいてほしいということで病院に入るが、それではいけない。時々入院してほぼ在宅という、在宅生活重視のほうが利用者的にも良いのではないかというお話だった。</p> <p>そうすると、この居宅サービスの利用者が多いとか、訪問介護が最も多く、というのは、和泉市は模範的なのでしょうか。何か悪くなったらすぐに病院に入り、最後まで入院してしまうと、どんどん費用がかかっていくわけです。そうではなく、家庭で自分のできることは自分でやるから抑えられると。その辺りはどうなのですか。</p>
D 委員	<p>病院は延命、とおっしゃいましたが、今でもそういった病院もあるかもしれないが、病院の中で延命治療をしていく時代はもうすでに終わっています。まず病院は処置する場所という考えになりましたので、延命という考えはなくなりました。むしろ、委員がおっしゃったように、時々入院、ほとんどは在宅。これが基本です。急変時にどうするかという話だけです。</p> <p>ただ、非常に理念は良いのですが、お金がないのだと思います。というよりも、お金をそっちに送らないのだと思います。医療介護のところにもう出てこない。もう一つは人が来ない。医療はロボットではなかなかできない。現実的な話として。それは一つ理解していただきたい。</p> <p>それから訪問介護ができてそれは和泉市として良いことではないかとおっしゃいました。それで、いい面もあります。ところが 23 ページを見てください。上のほうに居宅と地域密着、施設とあります。これは介護保険サービスのほうで、医療保険は関係ありません。これは、2017 年を 100 としたもので、訪問介護は 136.7。そんなに上がっていないのだけれどもも増えている。施設は 5 年前とほとんど変わっていないです。どちらかという地域密着の中ではグループホームが増えている。居宅の中では訪問介護だけが増えている。だけれども、他のところ、通所介護も増えているのですが、逆に減っているところもあるくらいです。</p>

	<p>大阪府はどちらかというと訪問介護のパーセントが多いのですが、確か、全国のところでは確か、大体、通所介護が多いのですか。大阪は何か違います。訪問介護があるということは良いのだけれど、それに満足度があるか。訪問介護はきちんとしてもらっているか。先ほど言っていたように、24時間やっているか。夜のことはご不満とおっしゃったが、これだけ大阪府、和泉市は訪問介護をやっているのに、肝心なところはどうかという話です。</p> <p>でもやるほうにすると、きっとスタッフがいないためできないとい。その中でバランスをどうしていくかということです。私はお金を取るサービスだけではダメだと思っているんです。だから老人クラブなど、皆さんが頑張っていたいことを、もっと有機的につなげていただき、和泉市からお金を出していただいて、やっている市民の人たちも自分たちの地域で要支援の人などに対して役になっているんだということを市民の中でつくっていただければと思っています。つまり、共助、共生なのですが、自助だけでは無理です。</p>
会長	<p>資料1、2、3について、和泉市の福祉や介護の現状を非常につかみやすい資料をつくっていただきました。これは資料5のロジックモデルともつながることになってきます。ですので、ご指摘にあったように現状をつかみながら評価も踏まえて、今後ロジックモデルを考えていただければ。</p> <p>ロジックモデルについてはこの後の議論ですけれども、そこに活かせるかなと思います。なかなか議論はつきないのですが、資料4の基本理念に戻りまして、事務局から提案のあった2040年の姿、目指すべき都市の将来像イメージ、そして基本目標①から⑤について、いかがでしょうか。</p>
B委員	<p>目標ですが、2040年は高齢者が40%くらいになると思います。そうすると年寄りばかりだということになると思うが、個人的に思いますのは、「エンジョイ」ということが重要かと。この前、高校野球で「エンジョイ、ベースボール」というのをやっておられました。それをとるのではないですが、「エンジョイ とかいなか 和泉」そんな感じで考えたい。高齢者ばかりでも、もっと明るく、楽しく。私は平成23年に老人クラブの若手部をつくったときに、「自分に楽しく、皆に楽しく」でいこうと言ったんです。明るく、楽しいというような表現でいったらどうだろう。</p>
会長	<p>「明るく、楽しい」といったものがキーワード的になるということですね。ありがとうございます。</p> <p>基本目標についてはこの①から⑤でよろしいでしょうか。</p> <p>では、2040年の姿につきましては、B委員から出た意見も踏まえて、また事務局でもんでいただけますでしょうか。そして次回の本協議会の中で、ご提示いただくというふうな流れでいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
D委員	<p>この背景はおそらく、和泉市だけではない。ちょうど2025年問題が出た2015年から2012年くらいに、和泉市で市民の皆様とこういう話をしたとき、2025年の話なんて、と言っていました、あと2年なんですよ。でも、あと5、6年で一気に変わってきます。そう考えたときに2040年という考えも大事だけれども、いったんその前に中間答申みたいなかたちで、これから10年後の2032年くらい。2040年の目標もあるけれども、この10年後には、和泉市はこういうものをしたらどうか、ということをし少し付け加えられたらどうかと個人的には思いました。</p>
会長	<p>今のD委員のご提案につきまして、事務局から何かありますか。また事務局で少し検討していただいて。今のご提案、ご意見につきまして次の本会で事務局からまたご提案いただくというかたちでお願いいたします。</p> <p>では、基本目標についてはこの①から⑤でいくということで、理念につきましては、ご意見をもとに、事務局で揉んでいただければと思います。</p> <p>では、次に移りたいと思います。資料5になります。ロジックモデルから、その次の基本目標①から⑤について、続けて説明をお願いいたします。特に要点となること</p>

	ろに絞って説明をお願いいたします。
事務局	資料5 「第9期計画におけるロジックモデルの検討」について説明
会長	<p>中間アウトカムについては資料4にあった基本目標が入っているという構成になっています。事務局としては初期アウトカムについてのご意見をいただきたいということなのですが、それ以外の例えば施策についても委員の皆様からご意見がありましたらお願いいたします。</p> <p>基本的な確認なのですが、資料2にもありましたように、今までは評価指標を設定されていましたが、第9期においても、初期アウトカムとは別に指標を設定されるという考え方でよろしいでしょうか。</p>
事務局	何らかの評価は必要になってくると思いますので、初期アウトカムに合わせた形で設定していきたいと思っています。
会長	<p>現状とすれば、初期アウトカムと関連して今までの第8期のように評価指標も設定していくという方向ということですね。</p> <p>私から2、3点。資料5の6ページ。「インプット・アウトプット」の「(2) 地域での生活の自立支援」の⑥で「高齢者おでかけ支援チケット」について書いていますが、外出支援や移送サービスは、アンケート等を踏まえるとかなりニーズがあるのかなというふうに感じましたので、今後第9期の施策考えるときに、外出支援や移送サービスを充実していけないか、事務局でも検討していただければと思います。</p> <p>それから7ページの基本目標5の「(1) サービスの質の向上と介護現場に対する支援」の⑦で「介護人材の確保」と挙げていますが、アンケート結果等みますと、介護人材の確保と定着に向けた支援というのは非常に重要ですので、今後施策を考えていくときに、その辺りも更に、充実したものを検討いただければと思います。</p> <p>もう一つ、4ページの初期アウトカム、「認知症や認知症の人に対する地域での理解がある」について、資料2の4ページを見ていただくと、分析の前半部分は理解の増進を進めていくということで一緒ですが、そのあとに「相談機関の周知、充実が必要である」と記載されています。資料2の分析を踏まえて、この初期アウトカムを書かれているのですが、もう一度、資料2の分析を活かすようなかたちで初期アウトカムを考えていくと、PDCAがより機能する、つながっていくと思います。そのつながりを意識していただいているかと思いますが、ぜひともこの分析と初期アウトカムの整合性についても考えてもらえたらと思います。あくまでも分析は参考の一つという位置づけかと思いますが、さらに意識していただければ。</p>
F委員	<p>現状の調査結果やアンケートを拝見している中で、介護人材の不足や、介護の仕事をされている人は時間がない、取れないというようなご意見もありました。その辺りを解決する方法の一つだと思うのは、デジタル化をもっと取り入れることです。介護とデジタル化というのはどうなのかという気もするのですが、10何年か後のかたちとして考えるならその辺りをどういうかたちで取り入れるのか、その辺りの検討を進めていくというような言葉をこの中に取り込んでいってはどうかなと思います。</p> <p>前に見たものに、ロボットの導入に反対が少しあって、取り入れられなかったということが書いてありました。ロボットも年々発展しているようにも思いますので、その利用が今の介護人材の不足やケアマネの手を省くことなどに役立つのではないかなというふうに思いました。</p>
G委員	資料1の24ページ、一番下の部分に、介護療養型医療施設が約34万、介護医療院が約39万4千とあります。介護医療院というのは法律改正で数年前にできたものであるかと思っているのですが、この2つの施設はどう違うのでしょうか。いわゆる寝たきりの人などは介護医療院に入っているのかと思いますが、どういう違いがあるのか教えてほしいです。
事務局	介護療養型医療施設は、介護医療院にすべて移行しないといけないことになっております。今は移行期にあたって、今年度中に移行が終わるかたちです。

G委員	<p>病院の特定のベッドを介護医療院というかたちで認めている、運用しているケースがあるということになるのか。</p>
事務局	<p>医療の病床と、介護保険を使って入院されている介護療養型の病床が併設されているということもあります。その介護療養型のところは、介護医療院に移行することになります。A病院などはすべての病床が介護療養型医療施設でしたので、丸ごと介護医療院になっています。</p>
G委員	<p>高齢化は一層進展し、その中ではできるだけ施設サービスを少なくして、なるべく居宅サービスでというかたちになるんですね。</p> <p>第9期の計画、理念の言葉などは、ある年齢層以上の人はピンピンころりで人生を終えたいという方が多いです。一言でいえば「ピンころプラン」になると思うんです。いかにしてピンころで安寧の人生を終えてもらうかという中で、どう進めるかという議論をこれから進めていってもらえたらと思っている。</p>
会長	<p>介護が必要になっても、障がいを持って、尊厳をもって生きていける生活できる、そういった市、地域をつくっていくことが非常に重要だと思います。できるだけ元気に予防、それも大事ですが、介護が必要になっても尊厳を持って生活できる。そういったことを念頭において事務局においては計画づくりをよろしくお願いいたします。</p>
E委員	<p>市にもおたがいさまサポーターや、お話し相手を高齢者の方にマッチングさせるなど、色々考えていただいているのですが、なかなか成り手がいないという問題があると思います。おたがいさまサポーターでは、スタンプを押すなど色々考えてもらっているのですが、若い方にも魅力があって、それをしたいと思ってもらえるような施策を考えていただけたら、もう少し手助けをしようという人が増えるのではないかなと思います。</p>
H委員	<p>外出支援やゴミ出しなどにおいては、おたがいさまサポーターやちょいサポなど、色々していただいていることがあるにも関わらず、なり手がなかなかいない、マッチングがなかなかできない、ある限られたエリアしかできていない、というところをいかに全体に広げられるかということが大事なかなと思います。</p> <p>今すごく頑張っている方がご高齢になっていって、次につなぐ間の方がなかなかいないという現状です。60代前半、50代後半の人たちに、これからの自分たちの生活を考える部分、自分たちの地域のこれからを一緒に考えていくという部分をどれだけ分かってもらえるのかということもすごく大事な事なのではないかなと。</p> <p>介護保険の事業となったときに、65歳以上の人を対象に、保険を使っている人の年齢を考えますけれども、介護保険をいかに抑えていくかというときには、もっと前の段階で、どれだけの情報を提示、周知してもらえるのかというところがすごく大事だと思うので、そういう部分も含めてどうしていくかということもご検討いただけたら思っております。</p>
D委員	<p>今の意見の具体的なこととして、高齢者の方が定年後、働きながら、有償ボランティアをするというかたちが一つある。でもそういう人たちもどんどん減っていくと、今の話が出てくる。</p> <p>認知症サポーターをやったときに、キッズサポーターがいたんです。最初は大丈夫かなと思ったのだけど、和泉市のなかでも子どものサポーターがかなり増えてきました。和泉市で小学校、中学校、高校も含めた学生、介護保険に関係ないけれども、そういうボランティア的なことを学校と契約して、通知簿に影響するようなかたちでできれば。アメリカでは大学へ行く際に試験だけではなくて、ボランティアをどれだけしたかということも捉えており、それが通知簿に出ています。日本でもこれができたら。</p> <p>せっかくキッズサポーターの子どもたちがオレンジリングを持ってくれたのだから、認知症の人たちだけではなくて、自立支援にも参加してくれたら。そういうことを具体的にしたらどうかという提案です。</p>

I 委員	<p>街かどデイハウスが校区に1つか2つあると思います。健康な人、未認定の方の集まりということになっていますが、そこで介護の問題や、世間話の中に、共助、公助の問題などが出てくると思います。街かどデイハウスの中をもっと使いやすくしてほしい。もっと喫茶店的に。そういう集まりをつくって、健康な方がどんどん集まって、知らず知らずのうちに新しい、色んな情報をもって、助け合いをすとか。あるいは健康な方々の集まりをもっともっと増やして、健康に長寿寿命をつくっていくとか。街かどデイハウスの活用方法を、独立しないでもっとこの中に組み入れて、連携してどんどん活用して積極的に生かしていったら私としてはありがたいです。</p>
J 委員	<p>基本目標3の地域におけるネットワークの構築のところに、事業のアウトカムなどの設定があるのですが、私も自治会の会長をやっているが、地域における共生という部分というのは、かなり問題があると思っています。横のつながりがかなり薄い状態というのは、一般的に皆さんのところでも一緒じゃないかなと思う。</p> <p>これは本当に、介護の部分だけに限ったことではないのですが、もう少し行政のほうも横の連携を。介護なら介護の機関など、色々縦で別れると思うのですが、公民のほう、もちろん社協さんもそうなのですが、地域ということを一体的に考えて欲しい。介護の部門は介護の部門、学校の部門は学校の部門など、分けて考えるということが、文化になっていると思う。これでは、何も前に進まない。先ほど言われていたように、子どもや学生も一体的に含めた取組みなど、これは厚生労働省からおりて来ることや、国の方針では、かなり考えにくいところがあると思うが、それを脱却して、和泉市としてこれからどうしていくのか。</p> <p>最初に出ましたが、和泉市の特色、和泉市は本当にどうするのかということ。先ほどエンジョイという話もあったのですが、そういうのも含めたときに、総合的に和泉市として、本当にどういうかたちに持っていくのかということ。</p> <p>和泉市の特色というのをもっと彫り込んだほうが良いのではないかと。もう少し特色があるような。</p> <p>もう一つ、周知に関して、アンケート等で出ている結果に対して、今まで通りの周知、例えばLINEでといっても、高齢者とか特にLINEを見ない人は多い。ホームページに掲載していますとか、チラシ作りますとか、これでダメなので次に何をしようかという話を議論しないといけないと思います。もちろん高齢の方、目の悪いかたもいらっしやって、どうにかたちで周知とか発信をすれば、一番効率的になるかというのをもっと議論して、具体的な案と言うのを出した方がもっと前に進むのではないかな。そういった議論をできる場をもって、行政が問題点に対して、皆さんに問題を提議するというのはかなり大事だと思っています。問題を提議して、それに対してこういった委員会などで意見をもらって、それを取り入れていくということだと思うので、もう少し問題点をはっきりさせたほうが良いのではないかと思います。</p> <p>今回はこういうかたちなのですが、次回から、そういった何をしたいのか、中間で何をしているのかということも結構知りたいところなのです。2040年までの計画をして、その間ずっとやりっぱなしで前回、今回という評価があっても、この間には何も進まないのかと。途中でその事業評価というか、そういったのを組み直して、また途中で修正をどんどん加えていくようなかたちにしておいたほうが良いと思うので、それだけ意見として言うておきます。</p>
会長	<p>理念について、和泉市らしさということと、あと総合計画とか地域福祉計画とか、関連の計画の理念などももしかしたら、参考にする必要があるのかもしれないということ。あとは、個別的な議題について、今回、次回等々においては計画全般の内容づくりになりますので、なかなか個別まで踏み込んで、というのは難しいところもあるかもしれません。そういった個別の課題について、どうしていくのかというのは、また行政としての課題になってくるのかなというふうに思いますので、その辺りまた行政でも検討していただければなというふうに思います。</p>

	<p>そうしましたら、今回委員の皆様からいただきましたご意見等を踏まえて、事務局で次回、素案の作成をよろしくお願いいたします。</p> <p>では、次に次第の4番、その他について、委員の皆様、または事務局から何かございましたらよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。特にありませんか。</p> <p>では、以上で本協議会の報告、審議事項すべて終了となります。委員の皆様、長時間本当にありがとうございました。そして貴重なご意見ありがとうございました。この後進行を事務局にお任せします。</p>
司会	<p>梅谷会長、委員の皆様、ご意見、ご審議のほど誠にありがとうございました。次回の第3回の開催は本年11月14日(火)午後1時半からを予定しており、本日審議していただきました内容を基に、作成した素案についてご意見をいただく予定です。場所につきましては10月頃に開催案内を送付し、お伝えさせていただきますので、日程のご予定をお願いいたします。</p> <p>それでは、これを持ちまして、令和5年度第2回和泉市介護保険運営協議会を終了とさせていただきます。長時間のご審議誠にありがとうございました。</p>